

我佛を得て自り來た。經たる所の諸の劫數。無量百千萬億載阿僧祇なり。常に法を説いて。無數億の衆生を教化して。佛道に入ら令む。爾しより來た無量劫なり。衆生を度せんが爲の故に。方便して涅槃を現す。而も實には滅度せず。常に此に住して法を説く。我常に

此に住すれども。諸の神通力を以て。顛倒の衆生をして。近しと雖も見えざら令む。衆我が滅度を見て。廣く舍利を供養し。咸く皆戀慕を懷いて。渴仰の心を生す。衆生既に信伏し。質直にして意柔軟に。一心に佛を見たてまつらんと欲して。自ら一身命を惜します。時に我及び衆僧。俱に靈鷲山に出ず。我時に衆生に語る。

常に此に在つて滅せす。方便力を以ての故に。滅不滅有りと現す。餘國に衆生の恭敬し信樂する者有れば。我復彼の中に於いて。爲に無上の法を説く。汝等此を聞かずして。但我滅度すと謂えり。我諸の衆生を見るに。苦海に没在せり。かるが故に爲に身を現せずして。其れをして渴仰を生ぜ令む。其の心戀慕するに因つて。

乃ち出でて爲に法を説く。神通力はの如し。阿僧祇劫に於いて。常に靈鷲山及び餘の諸の住處に在り。衆生劫盡きて。大火に焼かるると見る時も。我が此の土は安穩にして。天人常に充满せり。園林諸の堂閣。種種の一寶をもつて莊嚴し。寶樹華果多くして。衆生の遊樂する所なり。諸天天の鼓を擊つて。常に衆の伎樂を作し。曼

陀羅華を雨らして。佛及び大衆に散す。我が淨土は穀れざるに。而も衆は燒け盡きて。憂怖諸の苦惱。是の如く悉く充满せりと見る。是の諸の罪の衆生は。惡業の因縁を以て。阿僧祇劫を過ぐれども。三寶の名を聞かず。諸の有ゆる功德を修し。柔和質直なる者は。則ち皆我が身。此に在つて法を説くと見る。或時は此の衆の爲べし。佛語は實にして虛しからず。醫の善き方便を

もつて。狂子を治せんが爲の故に。實には在れども而も死すと言ふに。能く虚妄と説くもの無きが如く。我も亦爲れ世の父。諸の苦患を救う者なり。凡夫の顛倒せるを爲て。實には在れども而も滅すと言つ。常に我を見るを以ての故に。而も憍恣の心を生じ。放逸にして五欲に著し。惡道の中に墮ちなん。我常に衆生の

道を行じ道を行ぜざるを知つて。應に一度す可き所に。隨つて。爲に種種の法を説く。

毎に自ら是の念を作さく。何を以てか衆生をして無上道に入り。速かに佛身を成就することを得せ令めんと。』